

好きなことをやって
それが皆さんに喜ばれる
こんなうれしいことはないです

体験メニューを企画実施している

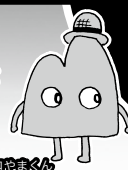
土井 福恵 さん(山内町)
右から2人目



みつけ体験・「さい」発見! 庄原さとやま博

2010.10.3～2011.11.30

さとやま博も残り3カ月キョロ!!
まだまだ、楽しいイベントが
たくさんあるキョロ!!



ラストスパート 特集!

昨年10月に開幕した「庄原さとやま博」。

開幕から11カ月が経過し、閉幕まで残り3カ月となった
この博覧会を振り返るとともに、次のステップへの道筋を探
ります。



着地型観光の推進役「庄原さとやま博」

2007年の観光立国推進基本法
施行から、全国各地で「着地型観光」
を推進する動きが生まれました。「着
地型観光」とは、地域が主体となり旅
行商品を企画して発信し、地域に直
接観光客を呼び込んで、ご当地性の高
い観光素材を提供する旅行形態をい

「庄原さとやま博」 新しい7つの 取り組み

7月末までに実施された体験メ
ニューは91種類、開催回数は141回。
延べ973人が参加しました。この体
験メニューを中心にした「さとやま博」
のさまざまな取り組みが、市内への入
り込み客増へとつながってきています。



1 その

市民連携

市民が行っているさまざまな活動を充実させたり、それぞ
れの活動を組み合わせたりのコーディネート役を
観光協会連合会が担いながら、広報宣伝などで活動を一緒に
盛り上げています。

① 体験メニュー

体験メニューを実施したいと漠然と
考えている人に対して、観光協会連合
会が窓口となり、実施へ向けた具体的
な相談、広報PR、受付・問い合わせ対
応、参加者への連絡など、連の業務を調
整しサポート。体験メニュー開発・実施
に向け、取り組みやすい環境を整える
よう努めています。

これまで、個人の方40人、22の市民グ
ループ、企業6社が、161種類のメニュ
ーを企画実施。多くの市民が参加し、おも
てなしの心で観光客との交流を楽しんで
います。

このほか、体験メニューを組み込んだ
団体旅行の誘致にも力を注いでいま
す。

体験メニューを組み込んだツ アーの実施団体例

- オーストラリア学生交流(大根
掘り体験、おにぎりづくり、高野
中学校との交流会)
- 学校の保護者会、体験学習(牛
舎での搾乳見学・えさやり体験、
野菜もぎ取り体験など)
- 自治体の視察受け入れ(高野
町あつぎ会と農業体験など)

リピーターの声

体験メニューに
なんと10回参加!



花房みどりさん
(三次市、会社員)

体験メニューに参加
することが生活の
楽しみになっています。

主催者の皆さんがとても自然で、
人柄に触れることで活力をいただい
ています。本当に豊かなもの、忘れ
られているものを気付かせてもら
い、とても感謝しています。今後も、
ぜひ続けてほしいです。



中村 准子さん
(広島市、主婦)

庄原ICを降りた
時に目に映る緑の美
しさに引かれ、いつも庄原まで足を
運んでいます。同じ緑なのに広島と
は色の深さが違うので、その瞬間心
が洗われるようです。また、さとや
ま博の講座は内容が良いだけではなく、
教えてください。庄原のお母さん
たちの温かい人柄に触れられ、それ
を楽しみに参加しています。

●参加者同行形態

参加形態	体験メニュー	全国(※)
1人	400人(41%)	13.1%
夫婦・カップル・家族	114人(12%)	31.6%
親子(子は小学生以下)	49人(5%)	16.7%
グループ(友人など)	306人(31%)	20.0%
その他	104人(11%)	18.6%

※1人での単独参加がトップ。次いで女性の友人グループ
による参加が多い。

※全国的な観光動向に比べ、体験メニューは1人での参加
が圧倒的に多い。

※全国=2011じゃらんリサーチセンター調べ

●参加者居住地別(平成22年秋～23年春)

参加者居住地	秋	冬	春	伸び率(秋から春)
市内	56人(30%)	155人(68%)	195人(58%)	348%UP↑
近隣市(三次市など)	20人(11%)	41人(18%)	46人(13%)	230%UP↑
広島市	25人(13%)	11人(5%)	38人(11%)	152%UP↑
広島県内(広島市以外)	6人(3%)	5人(2%)	34人(11%)	567%UP↑
広島県外(岡山、鳥取、香川など)	5人(3%)	0人(0%)	9人(3%)	180%UP↑
海外(オーストラリア)	22人(12%)	0人(0%)	0人(0%)	—
不明	53人(28%)	15人(7%)	13人(4%)	—
合計	187人	227人	335人	179%UP↑

■体験メニューの参加者データ(平成22年秋～23年7月末:居住地別を除く)

●リピート率(満足度)

2回参加	72人
3回参加	28人
4回参加	5人
5回参加	10人
6回以上参加	7人
リピート率 (人数)	16.4% (122人)

※参加者の約8割が女性。6人に1人
が複数回参加。満足度の高さがうかが
える。また、4人に1人が50代、2.5
人に1人が60代以上。

●性別

男性	178人(21%)
女性	665人(79%)
有効回答数	843人

●年代別

～19歳	38人(6%)
20～29歳	29人(4%)
30～39歳	78人(12%)
40～49歳	96人(15%)
50～59歳	161人(24%)
60歳～	260人(39%)
有効回答数	662人

い、地域が元気になるための「観光振
興」となるものです。
市は、地域の魅力を再発見し、磨
き、発信していく「着地型観光」を積
極的に推進するきっかけづくりとして
「庄原さとやま博」を開催していま
す。



ラストパート
特集!

その2 ニュースペーパーの発行

「庄原さとやま博」公式ニュー
スペーパーとして、季節ごとに
5万部を発行。
体験メニューの紹介はもちろ
ん、冬のスキー場、
春の桜や山野草、
夏の滝やキャンプ場
の紹介など、季節
に応じた観光情報
を発信し庄原市の
観光ガイドブック
として情報を発信
しています。



新聞屋さんやガス屋さんが
「ここは時間が惜しくないほど落ち着く」
と言ってくれるのがとてもうれしい

三上 敏枝 さん(西本町)

朝、夫婦二人で庭を散歩することに喜びを感じながら、
私たち自身が庭に癒やされています。

② オープンガーデン

しょうばら花会議の主催で今春試
験的に実施された「さとやまオープン
ガーデン」は、4日間で延べ2,357人
(実数約600人/一人4庭見学)の
見学者を集めました。「さとやまの景
観と手作りの庭に癒やされた」「庭主
さんとのお話が楽しくてつい長居を
してしまった」など喜びの声が多く寄
せられ、高い評価と予想を超える反響が
ありました。

これは、活動の核となる、しょうばら
花会議の会員や庭主、その活動を支え
る観光協会連合会・庄原商工会議所・
国営備北丘陵公園行政が協働し連
携したことによる成功例といえます。
この結果を受け、秋のオープンガーデン
への期待も一層膨らんでいます。庭主を
順調に増やしている花会議は、庭の紹
介や地図を付けたガイドブックなどを
作成し、二人でも多くの成功体験を増
やそうと意気込んでいます。花会議の
メンバー一人一人のご当地愛で、庄原市
を元気づけています。



その3

イメージキャンペーンの展開

この夏、庄原市の
強みである夏の涼
しさを生かし「自然
が生み出すeco涼
を求めて庄原へ」をキャッチフレーズに、
避暑地のイメージを打ち出す夏の新
観光キャンペーンが展開されました。
併せてフリーアナウンサーの岡佳奈
さんとフリーリポーターの井上恵津子
さんを、庄原山ガールとして起用。庄
原の山の魅力をeco涼キャンペーンと
合わせて発信しています。



秋のオープンガーデンはさらに充実



しょうばら花会議
理事長 佐藤 浩子 さん

今秋10月3日から9日にかけて「さ
とやまオープンガーデン」を開催する
予定です。今回は新たに7つの庭が加
わり、18庭が見学できることになりま
した。現在、案内冊子「オープンガーデ

③ 着地型バスツアーの運行



さとバスツアー
古瀬戸内海の生態系を探る化石発掘体験のようす

庄原市発着のバスツアー(ツアー代金
全額が庄原市の事業者収入)を実施。
体験メニューを組み込み、地域の人との
交流を目玉にした「ご当地性」の高いバ
スツアーを企画。

同ツアー参加者へ行ったアンケート
調査では「大人も子どもも我を忘れ
て楽しめた」「めったにできない体験で
楽しかった」などと好評。参加した21
人中20人が「満足」と答えており、今
後の展開への大きな弾みとなっています。

「ガイドブック」の作成やおすすめコー
スの設定、タクシー会社や宿泊施設、飲
食店との共同企画など、趣味のガーデ
ニングが地域の活性化につながればと
諸準備を進めています。また、「第2回
さとやまガーデニングコンテスト」を9
月26日から10月9日まで開催します。
オープンガーデンを国営備北丘陵公
園の秋まわりの開催期間に合わせて行
うことで集客効果を高めたいと考えて
います。ぜひ、自慢の作品をご応募く
ださい。一緒にオープンガーデンを盛り
上げましょう。



この夏、庄原の涼しさを体
感しました。山ガールとし
てもっともっと庄原のこと
を知って、どんどんPRして
いきたいと思っています。

しょうばら山ガール
フリーリポーター
井上 恵津子 さん

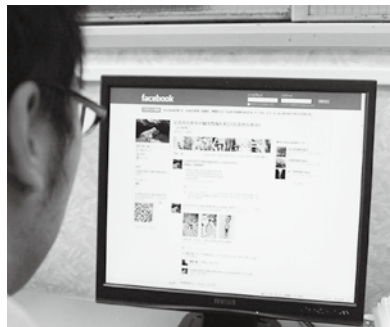


**ラストパート
特集!**

7 **その** 庄原さとやま博専用のホームページを立ち上げ、関連情報を取りまとめで発信しています。

また、今ビジネス界で注目のビジネスツール、ソーシャル・ネットワーク・キング・サービス(SNS)の「フェイスブック」を活用して、庄原市の観光情報を配信しています。

ページ上で「いいね!」ボタンを押してもらおう(ファンになっ



※フェイスブック・・・世界中に5億人を超えるユーザーを持つ世界最大のSNS。インターネット上で交流の場を構築する(提供する)サービス。

インターネットの活用

もらう(ことで、継続的な関係を構築することができま

さとやま博は「みつける、再発見する」というのが大きなテーマでした。あるものを生かすということとは、魅力を掘り起こすことです。私たちが気づいていない魅力を発見し、それが大切なものであると認識する、そういうものをみんなで見つけてきました。そこから、さとやまの魅力が詰まった多くの体験メニューが生まれたこと。これが一つの大きな成果です。

ただ、これをこのままにして閉幕と同時に終わらせてはいけません。生まれてきたものを今後どのように生かしていくのか。「さとやま博」の名前は消えても、見つけたものをちゃんと発信して継続し、磨きをかけていく。そういう仕組みを作ることがわれわれの一番の仕事だと思っています。「さとやま

さとやま博に関する情報は、公式ニューズペーパーなどのほかホームページなどで入手できます。

●フェイスブック
ヤフーやグーグルなどの情報検索サイトで「フェイスブック 庄原市観光情報」と入力すると、サイトが表示され閲覧できます。

●ホームページ <http://shobara-satoyama.jp>
●ユーチューブ <http://www.youtube.com/user/KIYOYUZO>

さとやま博に関するお問い合わせは、庄原市観光協会連合会(☎0824-75-0173)まで。

6 **その** 少子高齢化の進む庄原市では、今後、従来のような総合型の大型イベントを実施することがますます難しくなると予想されるなか、将来を見据えた、新しいイベントの実施形態を探ろうと模索。

主催者が、少ない予算と負担で魅力的なイベントを展開する1つの方法として、地域の人のそれぞれの強みを生かしながら、1つのテーマの下にさまざまな機関や団体が集まって作るイベン



ト形態を提案しています。

春と秋に、農事体験や座談会、写真展など連続した企画を「古式の農事」というテーマを切り口に開催。さとやまの文化の魅力を多角的に掘り下げ

新しいイベントのカタチを提案

4 **その** 庄原市の魅力をさらに取り上げてもらえるよう、小まめな情報提供と取材対応に努めています。

新聞・テレビへの情報提供と取材の対応

庄原さとやま博で行うイベントや体験メニューなどの情報をメディアに対して発信。

庄原さとやま博開幕からこれまでの約1年間で、約60件のテレビ取材を受け、各局の番組で放送されました。



テレビ各局が取材



5 **その**

※番組は動画投稿サイト「YouTube(ユーチューブ)」でご覧になれます。
<http://www.youtube.com/user/KIYOYUZO>

ケーブルテレビの番組制作、動画配信

番組の制作は、観光協会連合会の職員が行い、映像制作会社に依頼する場合の約4分の1の経費で番組を製作しています。

番組の制作は、観光協会連合会の職員が行い、映像制作会社に依頼する場合の約4分の1の経費で番組を製作しています。

1回5分間の番組を1週間で20回、三次市内の視聴者1万3千200世帯向け、庄原市の観光スポットと庄原さとやま博の体験メニュー、イベントなどを紹介しています。番組内では地域の人が番組出演し、自ら地元の魅力を発信しています。

6月から、三次ケーブルテレビジョン(三次市)で庄原市の魅力を発信する情報番組「みつ



リピーターの獲得が大きな鍵になる

これら7つの新しい取り組みは、PDCAサイクルと呼ばれる考え方に基づいて行っています。

「計画(Plan)を立てて実施(Do)し、結果を検証(Check)し、改善(Act)する」、このサイクルを繰り返すことで宿泊を伴う観光客の増加、観光消費額増加という目的の達成を目指すというものです。まずは、日帰りの観光客を増やすことを近い目標に掲げ、段階ごとの目標をクリアしながら、らせん階段を上るように最終の目的である宿泊を伴う観光客の増加を目指します。

新たな観光客を獲得し、二人でも多くの市民がおもてなしの心で観光客との交流を楽しみ、リピーターにつなげていく。これが今後の観光振興の大きな鍵になると思います。



庄原市観光協会連合会 企画員
吉川 理恵 さん

庄原さとやま博は始まりの鐘

博「は」過性のイベントではなく、これからも育っていくものだと思います。最終的には、面白くて楽しい町、住みたい町、につなげていくこと。それには、これからがとて

「さとやま博」がきっかけで、庄原のファンがたくさんできてきました。実は、身近にも庄原へ移り住もうかという人も現れました。これが庄原市にとって大きな財産であり、最も大きな成果だと思

さらに交流を通して庄原のファンが増えるよう、市民の皆さんのより一層の活躍を期待しています。

見てよし、
食べてよし、
庄原の秋を存分に
楽しもう!

秋のさとやまイベント情報!

10月 9 日	備北ビックバンドフェスティバル音楽と花火の響演	国営備北丘陵公園
10月10日	わいわいフェスタ	口和自治振興センター
10月15・16日	さとやま手作りアートフェスタ	国営備北丘陵公園
10月16日	西城ふるさと祭	西城球技場
10月16日	ふれあい東城まつり	東城小学校
10月16日	比和やまびこ祭	比和総合運動公園
10月22・23日	総領おいでん祭・庄原「みのりの祭典'21」	田総の里スポーツ公園
11月 3 日	お通り	東城町市街地
11月 6 日	帝釈もみじまつり	帝釈自治振興センター
11月20日	帝釈峡近郷神楽競演大会	東城老人福祉センター